



# いぞおり

豊田南小学校 学校だより  
令和5年度 第6号  
令和5年8月28日  
文責 教頭 (大場)

今日から2学期が始まりました。

9月…6年生が、修学旅行(東京)に出掛けます。

10月…PTA 授業参観会・学級懇談会があります。

5年生は、観音山自然の家で宿泊体験学習を行います。

11月…芸術鑑賞会があります。

子供たちの成長を楽しみにしています。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。



## 【2学期始業式 校長先生の話】

朝、ポプラっ子の元気な顔、大きくなった姿を久しぶりに見ることができてうれしく思いました。夏休み前に、「夏休みの大切な時間を自分やまわりの人のために大事に使ってくださいね。」とお願いしました。「こんなこと頑張ったよ。」「これに挑戦したよ。」ということはたくさんありましたか。ぜひ担任の先生に夏休みのできごとをいっぱいお話ししてください。

夏休み何気なくテレビを見ていたらこんな番組がありました。NHKで放送されている『ピタゴラスイッチ』という番組です。知ってる人、観たことがある人もたくさんいることでしょう。この番組では、「ピタゴラ装置」と呼ばれる仕掛けが登場します。これは身の回りにあるもので作られた手の込んだドミノのようなものです。色々な仕掛けが次々に動いていき、最後には番組名の頭文字である「ピ」という文字が出てくるともあります。

校長先生はこの番組をいつも観ているわけではないのですが、テレビで目にした時は、その発想の豊かさや仕組みの面白さにいつも見入ってしまいます。

以前、この『ピタゴラスイッチ』の番組内で「ピタゴラ装置」のNG集が放送されていました。つまり、作った仕掛けがうまくいかず失敗した様子が紹介されていたわけです。私はこれを観た時に、「そうか。テレビではいつも成功したシーンをやっていたけど、その裏には、数え切れないほどの失敗や、テレビ局の人の苦労があるんだなあ」と思いました。「普段はうまくいった場面しか放送されないし、いつもいつも一発でうまくいっている、けれども本当はそうではないんだ」ということにNG集を通して気づかされたのです。

私たちの生活も同じかもしれません。一回でうまくいくこともあります、そうでないことも多いと思います。生きていく上で、何度も何度も失敗を繰り返すことがあるのかもしれませんが、けれども、そのままでは終わらずに、工夫をしたり誰かの助けを借りたり、そうやって「できるまで頑張る」「とことんまでやる」ことで、人は確かに少しずつ成長していくことができるのではないかと思います。ですからみなさんには、2学期の学校生活でうまくいかないことがあっても、「もう一度やってみよう!」という強い気持ちをもって過ごしてくれればと願っています。



それからもう一つ、2学期は次のことを頭に入れて生活してほしいです。

「口」は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう

「目」は、人のよいところを見るために使おう

「耳」は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう

「手足」は、人を助けるために使おう

「心」は、人の痛みがわかるために使おう



これらは、「腰塚勇人さん」という人の言葉です。腰塚さんは中学校の先生をしていましたが、スキーの事故で首を骨折し、首から下が全く動かなくなってしまい生きる希望を失いかけてました。しかし、周りの人の応援や励まし・支えによって、ありのままの自分を大切に、チャレンジし、「自分の命を自分のために、人のために使いたい」と考えるまでに立ち直りました。こうした経験をした腰塚さんが語った言葉です。みなさんも「口」「目」「耳」「手足」「心」を自分やまわりの人のために使ってほしいと思います。

2学期は、「みんな笑顔で大切にされる学校」を目指しましょう。そのためには、腰塚さんのように温かなことは、やさしい気持ちを大切にしましょう。そして、ピタゴラススイッチのように何度も何度もチャレンジすること、できるまでとことんやることをがんばっていきましょう。

## 【れんらく】

学校の様子は、ホームページでも紹介しています。御覧ください。

<https://toyodaminami-e.city-iwata.ed.jp>